「笹川杯作文コンクール 2012」～中国語で応募～ 第 3 回（8 月分）優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

福島原発事故をめぐる“つぶやき”

四川省 王暁

@王暁：

2011 年 3 月 11 日 14 時頃、日本でマグニチュード 9.0 の巨大地震が発生したことにより、福島第一原子力発電所で爆発が起き、大量の核燃料漏れが誘発された。日本や隣国の人々巨大なパニックをもたらし、全世界で原子力発電の安全問題に対する関心を呼び起こしている。福島の原発事故からもう 1 年以上になる今、皆さんは原子力発電をどう評価していますか？

中日政府チーム：

@胡錦涛主席：

中国は原子力安全対策を強め、本国の核燃料と核施設の安全を確保する。全体の原子力安全レベルを高めて、共に当地区の原子力安全レベル向上に力を尽くす。

@野田佳彦首相：国民の生活を守るため、福井県の関西電力大飯原子力発電所 3 号機と 4 号機を再起動すべきだ。

@全国政協　陸啓洲委員：

我が国のエネルギー需要量は絶えず上昇傾向を示している。原子力発電は安定的、高効率且つ大規模に利用可能なクリーンエネルギーとして、我が国のエネルギーの対外依存度を下げる重要な戦略であると同時に、国家のエネルギーの安定供給を保障し、経済社会の持続可能な発展を実現するために必然の選択である。

@共同通信社：

福島の原発事故は“天災ではなく明らかな人災”である。根本的な原因は日本の管理監督当局と東京電力との関係に“逆転”が発生したことにより、“監視、監督体制の崩壊”を招いたためであり、「放射能漏れ事故を予防する最善のタイミングを失った」のはそのせいだ。

@環境保護部（国家核安全局）：

日本の福島原子力発電所とは立地条件が異なるため、中国の原子力施設で福島原発と似た事故が発生する可能性は極めて低い。国家は既に短期、中期、長期的な計画を策定しており、民間の各原子力施設に期日どおり相応の改善を完了し、全ての発生可能性がある事故に対応するように求めている。

@国務院研究室総合司　範必副司長：

原子力発電の発展においては、安全を最上位に置くべきであり、安全問題は絶対に疎かにできない。去年 3 月、日本の福島原発事故の後、国務院は中国の原子力発電の発展に対して要求を出し、既に準備段階の作業が展開されているプロジェクトを含め、『原子力安全計画』の承認まで、原子力発電プロジェクトの審査許可を一時停止している。

中日有識者チーム：

@中国工学院 杜祥琬院士：

人類がその巨大な潜在力と価値を知ったからには、原子力を引き出しや籠に封じ込めておくことなどあり得ない。必ず努力して開発し、掌握して、人類の従順なツールにするだろう。原子力の制御不能こそ、真の危険である。

@経済産業省原子力安全保安院：

福島第一原子力発電所の事故で漏れた放射性物質の総量はチェルノブイリ原発事故の 10%程度であり、しかも放射性物質の漏れは既に管理下にある。輻射の程度は非常に軽微で、原子力発電所の近隣住民に短期的な危害をもたらすことはなく、まして周辺国に影響を及ぼすことはあり得ない。

@中国科学院理論物理所研究員、中国科学院　何祚庥院士：

福島の事故がくれた教訓は、原子力発電所の設計と運行に関する安全の標準を大幅に向上させなければならないということであり、つまりあのような“千年に一度”の偶然の事故をも含めて考慮しなければ、福島のような事故が再び発生しないことを“確保”することはできない。しかも“確保”は“絶対”でなければならず、“相対的に”確保することではないのである。

@中国原子力研究設計院　楊岐名誉院長：

原子力発電の発展では、安全第一の原則を堅持しなければならない。リスク意識、危機意識、責任意識を強化しなければならず、設計、製造、建設、運行、廃炉、安全の管理・監督と応急の各プロセスで全て責任を明確にして、共に安全防御線を構築しなければならないのである。

@中国原子力研究設計院　陳炳徳副院長兼シニアエンジニア　：

『原子力法』公布の準備を加速して、相応の原子力関連法律法規の体系を改善して健全にすることで、原子力発電所建設の大いなる発展と安全管理監督の情勢を要件に適応させることだ。

中日学生チーム：

@中国の小学生“小さな科学者”：

日本のみんなが前と同じように教室で楽しく過ごし、私のように科学の知識を学べたらいいな。私たちが大きくなったら、日本のみんなと原発っていう虎をキティちゃんに変えるんだ！

@福島県の小学生：

放射線は“とても恐い”、それで死んでしまうかもしれないけれど、私は四川省ブン川のみんなのように勇敢であることを選ぶ。

@中国の中学生“生命は確かに貴い”：

もう悲劇を再演させないで。原子力を引き続き発展させる前提は人類の生命が安全なことを保障すること。もしもある日、原子力の発展が本当に人類の壊滅を代価に求めるとしたら、より安全なエネルギーをどうしても求めなければならなくなるの？

@日本の中学生“原発事故には理性的に対応”：

飛び交うデマや、無数のおびえた眼差しに立ち向かうため、強さと自助努力を身につけなければならない。政府が満足な答えを出してくれるはずだと信じている。

@中国の大学生“未然に防止”：

どうしていつも事故が起きるまでミスを理解しないのだろう？国家は公共の問題を非常に重視するべきであり、二度と“おから”工事があってはならない。責任意識はとても重要だが、未然に防ぐことは更に重要であり、老子の言葉に「禍や福のよる所、福や禍の伏す所なり」とあるように、事故から経験と教訓をまとめることができれば、未来の長期的な安定が保証され、「災い転じて福となす」と言えるだろう。

@日本の大学生“To Be or Not to Be”：

中国の魯迅は「沈黙の中で爆発せず、沈黙の中で滅ぶ」という言葉を残している。私たちが直面しているのは生存と死亡の問題なのか、生存と発展の問題なのか、深く考える価値がある。

@王暁：

古語に「前車の覆るは後車の鑑」というものがある。福島の原発事故から人類が得た教訓は痛ましいものではあるが、私達に残された再考により、生まれ変わることができる。屈原は「路は漫々として其れ修遠なり、吾 将に上下して求索せんとす」という言葉を残した。原子力を引き続き発展させるべきか否かという問題に関しては、時間だけが良い試金石なのかもしれない。しかし、この問題と勇敢に向き合うことも必要なのである。世界の各国は次々と“持続可能な発展”にための戦略を出してきた。持続的発展が可能な道を歩くしかないと、私達ははっきり理解するべきである。更に、客観的且つ全面的に自然とその法則を知り、真剣に人類社会の発展史を熟視しなければ、自身と後代の生存と発展を満足させる生命の道を求めることはできないということも同様に理解すべきである。生命は継続されなければならず、むざむざ止めてしまってはならない。一時の貪欲さのために全人類を葬り去らないで！